E—6 定年後の適応（才2報）—— 定年退職後の生活変化と夫婦適応 ——

お茶の水女大家政　　柚井孝子　大越容子
福岡教育大　　○高橋久美子

目的　夫婦関係は家族周期の進行に伴って変化せざるをえない。職業役割と子育ての役割を喪失あるいは縮小しつつある向老期の夫婦は夫婦関係の再統合という課題に直面する。本報告では、そうした課題に直面している定年退職後の夫婦について、6つの情緒的統合欲求項目をとりあげ、利他的（……してあげたい）と利己的（……してほしい）の2側面から欲求充足の相手となる重要な他者及び欲求充足の程度を明らかにし、円満な夫婦関係をいとなむための条件を分析した。

方法　才1報に同じ

結果　情緒的統合欲求の相手をもたない孤立型の出現率は趣味・娯楽を共にすること以外の項目では極めて少なく、ほとんどが家族志向型であり、友人・知人・同僚など他人志向型もまた少ない。夫婦双方とも大多数が子供よりも配偶者を最も情緒的なよりどころにしている。夫婦関係に対する満足度は夫よりも妻のほうが若干低いが、全般的に満足度は高く、この時期の夫婦の適応状況は良好である。結婚満足度が夫妻とも高い適応組と夫妻とも低い不適応組とを対比させたところ、利他的欲求と利己的欲求の双方ともに配偶者志向率が適応組妻＞適応組夫＞不適応組夫＞不適応組妻となり、配偶者志向の程度と結婚満足度とは順相関し、特に夫よりも妻でその傾向が大きいことが明らかにされた。